



東海大学望星技術士会 会報

令和2年(2020)年3月 第4号

【 目 次 】

* ご挨拶

東海大学望星技術士会 会長挨拶 -年頭のご挨拶-	吉田 一也	1
技術士資格を現役学生達に是非知っていただきたい	森 修次	2
§ 1. 令和元年度東海大学望星技術士会の活動概要		3
§ 2. 令和元年度望星技術士会総会・特別講演会 開催報告		6
§ 3. 令和元年度東海大学在学学生との講演・交流懇親会の報告		8
§ 4. 令和元年度東海大学建学祭ホームカミングデー参加の報告		11
§ 5. 令和元年度東海大学望星技術士会見学会の報告		
東海大学海洋科学博物館 見学会		13
東海大学伊勢原キャンパス 見学会		15

* 会員からの便り

技術士資格取得の応援活動に参加して	出縄 二郎	17
技術士までの道のり	江口 真哉	18

* 連絡事項

1. 会員の皆様へお願い		19
2. 東海大学望星技術士会 今後の予定		19

* 役員紹介コーナー

* 編集後記

東海大学望星技術士会 会長挨拶 -年頭のご挨拶-

新年度を迎えるにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

技術士資格を持つ東海大学卒業生の会員組織である東海大学望星技術士会は、平成27年11月に創立されてから5年の節目を迎えました。本会の創設・発展には元副会長で顧問の神藤典一氏、和田洋六氏ら諸先輩の多大な熱意とご尽力があり、その功績は計り知れないものがあります。また、本会の会員数も年々増え、さらに本会の活動も充実しており、会に参加する者の一人として嬉しい限りであります。これらは会員の皆様のご理解とご協力のお陰と感謝いたします。

昨年は元号が平成から令和へと変わり、新しい時代が開幕いたしました。特にラグビーワールドカップが日本で開催され、日本が初めてベスト8に入ることができ、日本中を感動させました。本学卒業生であるリーチ・マイケル選手が日本代表の主将を務め、かつて東海大ラグビーチームを率いたエディ・ジョーンズ氏がイングランド代表監督として準優勝に貢献するなど学園関係者の活躍も光った大会でした。一方、地球温暖化により世界中で山火事や大規模な風水害が多発し、また、マイクロプラスチックによる環境問題などが社会問題として多く取り上げられました。これら解決には土木、上下水道、建築、環境保全、環境影響評価などにおいて高度な専門知識と経験を有する我々技術士の知見、示唆、提言そして活躍が今後も期待されています。



望星技術士会

会長 吉田 一也

東海大学工学部 特任教授

工学博士



さて望星技術士会の昨年の活動ですが6月22日に総会を開き、事業報告、会計報告、次年度の事業計画、予算等を承認いただきました。11月3日には東海大学ホームカミングデーが湘南校舎で行われた中で、我々の技術士会の活動を報告いたしました。11月30日清水校舎（海洋学部）において、学生と会員との交流会と講演会（学生への技術士資格取得支援）を行いました。また、2020年2月15日には東海大学付属伊勢原病院での先端医療研究・診療に関する講演会、先進医療施設見学会を行い、会員の学術・技術研鑽の機会を設けることもできました。

個人情報保護法の施行もあり、技術士資格を有する本学卒業生の連絡先が把握・確認ができておりません。東海大学出身の技術士数は今の会員数の数倍いや数十倍であると推測されます。技術士会の存在と有益な会であることを会員の一人ひとりによる積極的な広報・説明を東海大学卒業生にお願いし、ぜひこの会を拡大・成長させたく存じます。

会員皆様の益々のご健勝と望星技術士会、東海大学の発展をお祈り申し上げると共に、本会への一層のご支援ご協力ご指導をよろしくお願い申し上げます。

技術士資格を現役学生達に是非知っていただきたい

1972年4月、私は国内で唯一『光』について専門に教える東海大学光工学科に入学した。希望を胸に入学式を終えた数日後、学科ガイダンスがあり円形食堂近くの建物で4人部屋に合宿して夜まで行われた集中的なプログラムであった。最初に学科説明を行った主任の小室利光教授は開口一番『光は西へ!』と言われたことが印象的で、同年に延伸開業した山陽新幹線のテレビCMで流れていたキャッチコピーを交えながら『光』に関する話題を学生たちに興味を持たせるように話をしていただいた。先生は最後に「私は技術士です」と言って技術士資格についての説明をされ、「今すぐに受験できる訳ではありませんが、将来皆さんが技術者として活躍された時に30歳を過ぎたら受験する資格が有りますから。今日の話思い出してください。」と言って話しを終わられた。4年間、光工学科で光に関する物理やレンズ設計の基礎を学び、大学計算センターの大型コンピューターまで使わせていただいて卒業した。入社した会社は都内の医用光学器械を製造する会社で、当時の一般の企業にはコンピュータは勿論FAXも無く、やっと関数電卓が普及し始めた程度で大学で学んだ光学設計を生かす機会は無かった。会社は私を機械設計屋に育てるために、機械加工の実践から学ばせてくれた。1年の加工場実習を終え設計部に編入されて自ら設計して部品図を書くとき「自分で製作してきなさい」。実際に自分で機械加工してみると“この形状では加工出来ない”こと等を体感しながら機械設計を基礎から学ぶように指導していただいた。後になってこの経験が生きることになる。

1980年頃になるとパソコンが発売され、大学で学んだ光学設計をもう一度やりたいとの思いで転職し研究開発部門に配属された。偶然にも転職先の上司が技術士で「会社なんか永遠に有る物じゃない、この会社に居る間に資格を取りなさい」と技術士の受験を勧められた。当時の受験には7年以上の業歴証明が必要だった為、元の会社に行

望星技術士会
副会長代表 森 修次



き証明書を書いていただいて受験することになった。ご存知のとおり技術士試験は出題範囲が広く専門分野以外の設問も多く口頭試験ではステンレススチールの組成や特徴について聞かれ、前社で基礎から学んだ内容だったので立て板に水の如く答えることができ無事に合格した。そして10年後、バブル崩壊とともに金食い虫と呼ばれた研究開発部門は閉鎖され退社して独立し現在に至っている。独立開業してからは技術士資格を持っている。独立開業してからは技術士資格を持っている。独立開業してからは技術士資格を持っている。独立開業してからは技術士資格を持っている。今振り返ると、私にとって技術士との出会いは、

① 大学入学した時の小室先生の言葉

「私は技術士です・・・忘れないでください」

② 転職先の上司の言葉

「会社なんか永遠に・・・資格を取りなさい」

これらの言葉を聞いて無ければ私の人生は大きく変わっていたのではないと思われる。

先輩技術士の方から望星技術士会 立ち上げの話をいただいた時、後輩の学生達に技術士資格を伝える事が私の使命であろうとの思いから喜んで参加させていただいた。

受験した時に業務経歴証明を書いていただいた会社には感謝の気持ちを込めて現在も中元と歳暮をお送りしている。「中途退職者の中でこの様な物を今でも送ってくれるのは君だけだね」と笑われながら・・・良い関係が続いている。

§ 1. 平成 30 年度東海大学望星技術士会の活動概要

1. 令和元年度 定期総会・特別講演会の開催

期日：令和元年 6 月 22 日
場所：東海大学高輪キャンパス
出席者：40 名、会員総数 189 名
主要議題―別途後述

主要議題

- ◆ H30 年度 会計報告
- ◆ H30 年度の会報完成
- ◆ H31（R 元）年度年間行事検討
- ◆ 役員改選の検討
- ◆ その他

2. 令和元年度在学生との講演・交流懇親会の開催

期日：令和元年 11 月 30 日
場所：東海大学清水キャンパス
全出席者 42 名、会員出席数 17 名
主要内容―別途後述

第 2 回

開催日：令和 元年 5 月 18 日
場所：東海大学代々木キャンパス
出席者：10 名
主要議題

- ◆ 総会・特別講演会・懇親会準備
- ◆ その他

3. 令和元年度建学祭「幼ミンぐて」への参加

期日：令和元年 11 月 3 日
場所：東海大学湘南キャンパス
主要内容―別途後述

第 3 回

開催日：令和 元 7 月 20 日
場所：東海大学代々木キャンパス
出席者：9 名
主要議題

- ◆ 総会・特別講演会・懇親会のまとめ
- ◆ 学生との交流会について
- ◆ 本会運営に関する課題
- ◆ その他

4. 見学会の開催（東海大学海洋科学博物館）

期日：令和元年 11 月 30 日
場所：東海大学海洋科学博物館
会員出席数：8 名
主要内容―別途後述

第 4 回

開催日：令和元年 8 月 24 日
場所：東海大学代々木キャンパス
出席者：7 名
主要議題

- ◆ HP への情報公開について
- ◆ 会則の記載修正の必要性について
- ◆ 会員名簿の整理、作成について
- ◆ 常任幹事と幹事の関係について
- ◆ 役員会等の出欠管理について
- ◆ 清水キャンパス交流会について
- ◆ 光・画像工学科卒研中間発表会への参加・支援について

5. 見学会の開催（伊勢原キャンパス）

期日：令和 2 年 2 月 15 日
場所：東海大学伊勢原キャンパス
会員出席数：14 名
主要内容―別途後述

6. 役員会の開催状況

第 1 回

開催日：平成 31 年 4 月 6 日
場所：東海大学代々木キャンパス
出席者：8 名

- ◆ ホームカミングデーへの対応について
- ◆ その他

第5回

開催日：令和元年 9月 21日

場所：東海大学代々木キャンパス

出席者：5名

主要議題：

- ◆ ホームページの新規情報発信状況の確認
- ◆ 大学技術士会連絡協議会への対応
- ◆ 会員名簿の整理作成状況
- ◆ 清水キャンパス OB 技術士と学生との交流会準備状況
- ◆ ホームカミングデーへの対応
- ◆ 見学会の実施について
- ◆ その他

第6回

開催日：令和元年 10月 19日

場所：東海大学代々木キャンパス

出席者：9名

主要議題

- ◆ 会員名簿の作成経過について
- ◆ ホームカミングデーの対応準備
- ◆ 清水キャンパス OB 技術士と学生との交流会準備状況について
- ◆ 大学技術士会連絡協議会への対応
- ◆ 見学会の開催について
- ◆ その他

第7回

開催日：令和元年 11月 16日

場所：東海大学代々木キャンパス

出席者：5名

主要議題

- ◆ ホームカミングデー対応の考察
- ◆ ホームページの入会申込情報の捕捉・整理について
- ◆ 清水キャンパス学生と OB 技術士との交流会について

- ◆ 大学技術士会連絡協議会への対応
- ◆ 見学会の開催準備について
- ◆ 次年度総会の霞ヶ関ビル校友会館開催について
- ◆ 会員に対して本会活動への協力情報収集について

第8回

開催日：令和元年 12月 21日

場所：東海大学代々木キャンパス

出席者：4名

主要議題-

- ◆ 清水キャンパス学生と OB 技術士との交流会の考察（平野）
- ◆ 大学技術士会連絡協議会への対応
- ◆ 見学会の開催準備（伊勢原附属病院の講演・見学会）
- ◆ 会報準備
- ◆ 会員への活動協力アンケート結果
- ◆ 大学との連携について
- ◆ その他

第9回

開催日：令和 2年 1月 18日

場所：東海大学代々木キャンパス

出席者：6名

主要議題

- ◆ 見学会の開催準備
- ◆ 会報準備
- ◆ 令和 2 年度総会について
- ◆ 令和 2 年度活動内容について
- ◆ その他

第10回

開催日：令和 2年 2月 29日

場所：東海大学代々木キャンパス

出席者：4名

主要議題

- ◆ 伊勢原キャンパス見学会の考察
- ◆ 会報準備状況
- ◆ 令和 2 年度総会準備

- ◆ 新年度活動内容・スケジュール（見学会、HCD、交流会他）
- ◆ その他

第 11 回

開催日：令和 2 年 3 月 21 日

場所：東海大学代々木キャンパス

出席者：7 名

主要議題

- ◆ 総会準備
- ◆ 会報の内容確認
- ◆ その他

7. 大学技術士会連絡協議会の活動

① 総会出席

開催日：令和 元年 11 月 30 日

場所：東京都市大学世田谷キャンパス

出席者：齋藤、永井

主要な話題

- ◆ 参加校は 33 大学に拡大。
- ◆ 平成 30 年度の一次試験合格者数は、10 名以上の合格者を出している 111 大学中、東海大学は 18 番目
- ◆ 日本技術士会男女共同参画推進委員会から、「技術士キャリアモデル集」の紹介があり、その中に、東海大学の前田先生のメッセージが掲載されている。

§ 2. 令和元年度望星技術士会総会・特別講演会 開催報告

事務局幹事 畑 恭子

- 1) 日時：令和元年 6 月 22 日 (土)
15 : 00～18 : 30
- 2) 場所：高輪キャンパス
総会：1 号館 1203 教室
懇親会：4 号館 地下 1 階食堂
- 3) 総会 15 : 00～16 : 00
- 4) 特別講演会 16 : 10～16 : 50
- 5) 懇親会 17 : 00～18 : 30
- 6) 参加者：総会・特別講演会：40 名
懇親会：38 名

＝総会＝

総会の冒頭でご挨拶いただいた吉田一也会長から、技術士資格を持つ卒業生の活躍が本学にも大きなエネルギーとなっていることなどが述べられました。

続いて来賓の川上学長補佐と梶田土木工学科長よりご挨拶をいただき、お二人共に、社会に出てからの技術士の重要性について学生に伝えてほしいとのご要望をいただきました。



【川上学長補佐】



【梶田土木工学科長】

議長が選出され参加者の承認をもって本会の議案成立を確認し、総会議事が始まりました。

H30 年度活動実績報告の件(事務局長 森)

- 1) 定期総会・特別講演会の開催
- 2) 学生とOB技術士との講演・交流懇親会
- 3) 建学祭ホームカミングデーへの参加
- 4) 見学会『東海大学清水キャンパス』
- 5) 見学会『東海大学高輪キャンパス』
- 6) 会報第3号発行
- 7) 役員会の開催 (10 回)

第1号議案:H30 年度の会計報告(会計 平野) 会計監査報告(会計監事 中村)の件

第2号議案:会則改定の件(事務局長 森)

役員としての常任幹事を新設し、常任幹事と幹事の担当を明確化しました。

第3号議案:令和元年度 役員 15 名選任の件(事務局長 森)

役員任期は今年度から 2 年となるため、新たに役員 15 名、会計監事 1 名の選任が行われました。

第4号議案:令和元年度活動計画(案)(新事務局長 齋藤)、令和元年度予算計画(案)(会計 平野)の件

1) 総会の開催 令和元年 6月22日 総会・特別講演会

2) 会員向け行事の開催 見学会(1) 令和元年 9～10月頃

3) 学生とOB技術士の交流・懇親会の開催(清水キャンパス) 令和元年 11～12月頃

4) 会報の発行 令和2年3月末

5) その他 令和元年11月 3日 建学祭 ホームカミングデー参加、ホームページの充実

全ての議案について審議され承認されました。

議長退任後、平成29-30年度副会長退任挨拶があり、その中で、技術士法の設立に松前重義総長が尽力されていて、東海大学と技術士には深い縁があるという話が印象的でした。

会員からの意見として、以下の4点があげられました。

①望星技術士会のホームページを大学同窓会のページにリンクしてほしい

②会員企業の現場見学やインターンシップ等、産学連携を積極的に進めてほしい

③遠方の会員の志を示すことができる寄付口座を開設してほしい

④会員名簿を教職員が閲覧できるようにして、どのような部門に会員がいるのか等知ってほしい

これに対して、齋藤新事務局長より回答があり、引き続き役員会において検討を行う一方、各会員の積極的な参加を呼びかけました。



【総会の様子】

＝特別講演会＝

総会に続いて『第50回海外研修航海を終えて ～未来へつなぐ航海～』と題して吉田会長による特別講演が行われました。

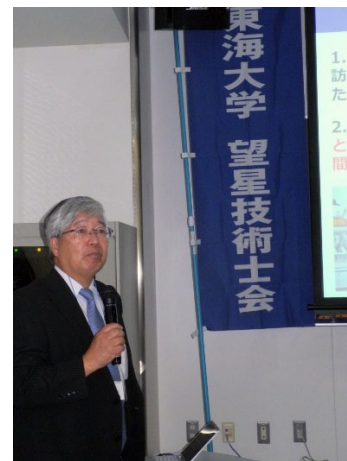
吉田会長は、学生98名、団役員13名、航海士練習学生24名、乗組員27名の総勢162名を率いる第50回海外研修航海の団長として、2019年2月9日から3月27日までの47日間、望星丸にて過去最長となる18,779kmの航海をされました。

講演では、研修航海のコース、目的、寄港地、船内スケジュール、船内での過ごし方等、豊富な写真とともにご紹介いただき、この航海がただの乗船実習ではなく、海外研修であることがよく理解できました。

海外研修航海により得られた成果として、本学の教育目標である4つの力「集い力、挑み力、自ら考える力、成し遂げ力」を身につける絶好の機会となったことをあげられていて、社会に出てこそ必要となるこれらの

力を身につける機会を得た学生さん達の今後に期待したくなりました。

吉田会長のパワーポイントによる講演の後、乗船された教職員の方々が作成されたスライドショーを見せていただきました。「栄光の架け橋」をBGMに乗船前研修からはじまる様々なシーンの学生さん達を中心としたスライドの数々に胸が熱くなりました。洋上の限られたスペースで47日間を共にした絆や経験は、きっと学生さん達にとって何ものにも換えがたい宝物になったと思います。



【講演される吉田会長】

講演会修了後、懇親会会場の4号館地下1階食堂に場所を移し参加者全員で記念撮影を行った後、懇親会が開催されました。

懇親会では、吉田会長が直々にリクエストされた「豚ロースの塩窯焼き 変わり塩と赤ワインソース」をはじめとした、すばらしいお料理と飲み物を手に、参加された会員同志が情報を交換し、とても充実した時間を過ごしました。



§ 3. 令和元年度東海大学在学生との講演・交流懇親会の報告

2019年11月30日、東海大学望星技術士会主催のOB技術士と海洋学部生との交流会を開催しました。交流会・講演会は、本学の学生に技術士に関する情報を提供することで、技術士という国家資格を知ってもらい、エンジニアとして技術士資格が不可欠であり、その必要性を早い段階で理解してもらうことを目的として、2016年度より継続的に実施しています。第4回となる今回は海洋学部の学生に対して、技術士の解説と資格を生かした業界の紹介と海の仕事の魅力や楽しさについて、3名の海洋学部先輩技術士に熱く語っていただきましたので、その内容を紹介します。

日時：令和元年11月30日（土）

14：00～18：30

場所：東海大学清水キャンパス

参加者：42名（学生14名、会員17名、
大学関係者7名、地元企業4名）

1. 講演会（海洋学部8号館：8N-01教室）

14：00～18：30

冒頭、望星技術士会活動の支援をいただいている川上哲太郎学長補佐（海洋学部環境社会学科教授）から、「集まっていたいただいた学生さんは、技術士についてあまり知らないかもしれない。自分は工学博士を持っているが、それだけで飯は食えず技術士は食える資格である。就職して会社に入って、実務経験を積んで資格取得に向けて頑張ってもらいたい。今回集まって方々は東海大学の卒業生ばかりで、社会人になって役に立つ話や面白い話が聞けると思うのでいい機会にしてほしい」との挨拶があった。

1.1 第1部 技術士の必要性和海洋学部卒業後活躍できる業務等の紹介

講師：笠原勉（望星技術士会副会長、技術士（建設・環境・水産2部門））

1) 背景

技術士試験の東海大学合格者は、平成29年度

吉田 倫夫

（よしだ みちお）

海洋学部海洋科学科 1986年卒
技術士（建設、総合技術監理）
株式会社ナカボーテック



1次試験は12位、2次試験が54位で私立では10位前後で何とか5位まで上げたいと思い、在学生への啓蒙活動が重要と考えている。望星技術士会の設立は工学部出身の7名の技術士が準備し松前総長に相談したところ、吉田教授を会長にしてぜひやってほしいとの要望を受けて設立された。この交流会・講演会は在学生への啓蒙活動の一環であり、湘南校舎でも大勢の参加を得て実施しており今回は海洋学部での開催を企画した。

2) 技術士とは

技術士の①目的、②定義、③部門と合格率が紹介され、技術士登録者の半数を占める「建設部門」での活用が紹介された。

3) 技術士の業務内容

前所属するいであ株の業務内容と建設部門の関係、海洋学部卒業生40名以上おり半数以上が技術士を取得している紹介をされた。また、海洋関連の会社に就職したい場合は、海の調査・分析・影響評価関連は海洋調査協会、コンサルタント関連については建設コンサルタント協会のホームページが参考となると紹介された。

3) 公共事業における技術士の役割

公共事業における契約手法（入札方法）は、2009年以前、2009～2012年、2012年以降で変遷しており、技術士の役割も大きく変わった。具体的には、2009年以前は①一般競争契約、②指名競争入札、③随意契約であった。2012年以降は①価格競争方式、②プロポーザル方式、③総合評価方式となった。業務を受注する場合には技術士個人の資格要件が不可欠であり、業務成績、表彰が加味され技術課題を解決する構想力やプ

レゼン力が発注者から評価・判断されて受注される仕組みを紹介された。

4) 海洋学部卒業後活躍できる業務等の紹介
海の生態系モデル等が紹介され、日本の藻場・干潟・サンゴが豊かな海の生態系を形成する。海域・海岸での開発事業に対する環境社会配慮の業務事例や豊かで美しい自然環境を保全・再生する国土づくりの業務事例などが紹介された。

5) 海洋学部生へのメッセージ

日本の海のすばらしさや海岸の美しさを知ってほしいと、流氷から亜熱帯海域の風景を写真で解説された。皆さんは海が好きで海洋学部へ入られたので、将来も海の仕事をやり技術士を目指してほしいと熱望された。

就職に関してはどこがいいかは自分で調べ判断し、大会社は雑巾掛けから始まる下積みする場合もあり小さい会社は即戦力を期待され、自分の適性にあったところがいいと紹介された。



1.2 第2部 技術士資格で実施した公共業務等の内容と体験談の紹介①

講師：二宮早由子（株式会社東京久栄、技術士（水産部門））

1) はじめに

東京久栄という男女格差がない会社へ入り、発電所の温排水影響調査、藻場造成、サンゴ増殖に取り組んできた。仕事を通じて、西表島の美しい自然に接し、海藻やサンゴを可愛く感じている。

2) 環境コンサルタントとは

官公庁や企業が抱える問題や課題を見つけ出し、専門家として技術と経験を活かして、調査や解析を行いながら、より良い方向に進めていく問題解決の提案やアドバイスをする仕事である。

具体的には、海域環境調査、浅海域の藻場造成、アマモ場造成、環境共生型護岸などの事例が紹介された。

3) 海洋学部生へのメッセージ

歌舞伎役者の松本白鷗さんが「芝居が楽しくて仕方ないところを観ていただきたい」とのコメントを寄せていた。皆さんも面白いと思える仕事に就いてほしい。最初に内定が取れたから入社するということではさみしい。パッションを持って、海に関連する仕事に従事してほしい。

楽しく仕事をすることは、技術の研鑽、広い人脈の開拓、新事業の発見・発表、知的好奇心、技術と経験の伝達が大切であるとの熱い思いを語っていただいた。



1.3 第2部 技術士資格で実施した公共業務等の内容と体験談の紹介②

講師：今村均（日本海洋コンサルタント株式会社、技術士（建設部門））

1) はじめに

卒業後、五洋建設で20年、日本海洋コンサルタントで20年、主に海洋環境の仕事に従事してきた。

ゼネコンの中でも海洋土木・港湾建設工事を請け負う業者をマリコンという。日経コンストラクション誌によれば、建設会社の全従業員の約10%が技術士で、建設コンサルタントの全技術者の50%以上が技術士となっているとの紹介があった。

2) これまでの仕事

入社して当初の研究開発テーマは、湧昇流発生漁場のメカニズムを明らかにし、人工漁魚礁より高度な技術を要する人工湧昇流発生構造物の開発に従事してきた。次に、ミティゲーション技術（開発行為に対する生物生息場への影響を

回避、低減、補償する業務)に取り組んだ。例えば、人工干潟造成には建設施工会社としての特徴を出した工法を開発したり、アマモ場の移植工法の開発に取り組んだりした。コンサルでは、老朽化した護岸を環境共生護岸に改良する設計を行った。そして現在、リサイクル材、具体的にはカルシア改質土(浚渫土に製鋼スラグを混合したもの)の活用による環境修復に取り組んでいる。

3) 海洋学部生へのメッセージ

自分のやりたい仕事に近付くためには、その業界や業種の情報を丹念に調べて、スクリーニングすることが重要である。



2. 懇親会 (海洋学部 4 号館 2 階ラウンジ)

17:00~18:30

講演会の終了後、ラウンジに場所を移して広島から遠路参加された久一幹事の司会で開催された。冒頭寄付や酒の差し入れがあったいであ(株)、鉄潜水工業(株)、(株)東海アクアノーツ、(株)三水の紹介があった。



今年 3 月で退職された千賀元学部長の乾杯で始まり、地元の市場から仕入れたすしや魚介類に舌鼓を打ちながら、先輩技術士と海洋学部生の熱き語らいが続いた。最後に、平野常任幹事か

ら見学会・交流会での総評と、開催に配慮した大学へのお礼を述べ中締めで無事終了した。



(筆者雑感)

今回の交流会は、海洋学部生の皆さんにとっては、先輩技術士の経験談を聴きながら、自分の将来を考え、働く姿を具体的に描くことができるいい機会になったことと思う。仕事に就いた後は技術士を意識しながら、できるだけ早い時期に技術士の資格取得に挑戦してくれることを願う。そして今回の交流会が、若き日に汝の知能を磨き、若き日に汝の希望を星につなぐ一助となったことを期待する。

(筆者余談)

晩秋の晴天に恵まれた日に、美しい富士山を眺めながら新幹線で、久々に清水の地を訪れた。清水駅で乗ったバスは、学生時代に下宿していた次郎長生家と逆方向へ曲がり、折しも日の出ふ頭に入港している「ちきゅう」を脇目に、「望星丸」が停泊する姿を眺めながら、いよいよ大学前の停留所に到着した。大学の門をくぐると学生時代と変わらぬ海洋学部の校舎が見えた。生協の売店で見つけた「望星丸」のストラップを購入し、昼食は学食でカレーライスを頂いた。図書館の上の講義室での講演会、学生当時敷居の高かったラウンジで、飲み物と食べ物を持ち込んでの懇親会となった。

当時と変わったものと変わらぬものを肌で感じ、熱い講義を聴き、学生さんと話すことで、33年前の学生時代の自分と対話することができた自分自身にとっても意義深い 1 日となった。

§ 4. 令和元年度東海大学建学祭ホームカミングデー参加の報告

事務局幹事 庄司 大介

1. 日程：令和元年11月3日（月・祝）
2. 場所：東海大学湘南キャンパス
・19号館（講演会，ブース）
・総合体育館（大懇親会）
3. 時間：10：00～10：20（講演会）
10：00～14：00（ブース）
14：30～16：00（大懇親会）

4. 参加目的

現役大学生やホームカミングデー（以下HCD）に来校された卒業生に、本学にも技術士会があることを知って頂き、有資格者の方には本会への参加を募り、学生の方へは技術士という資格を周知し、技術士取得を目指して頂くべくPR活動をするものである。

5. 参加準備

10月に湘南キャンパスのコムスクエアにて行われた、同窓会HCD実行委員会の打合せに参加した。そこでは、救命救急実習、イベント場所、タイムスケジュール等について打合せし、本会の講演の枠を20分頂けることとなった。また、会場視察を行い、設営や当日に向けての意見交換を行った。

後日の本会役員会にて、実行委員会での打合せ結果を踏まえた話し合いを行い、当日に向けての準備を進めた。講演については、神藤典一顧問にお願いをした。

6. ホームカミングデー当日

11月3日（日）9時からの全体朝礼に参加し、会場設営の準備を始める。今年と同窓会会場は、19号館2階のオープンマルチアトリエとなった。

入り口脇に本会のブースを設置し、のぼり旗を立て、ポスターを貼り、テーブルに技術士関連の資料を並べて準備万端。10時に開場を迎えると、各ブースがオープンすると共に、ステージイベントも開幕した。



【全体朝礼】



【19号館学部デモンストレーション状況】



【望星技術士会ブース】

ステージイベントでは、本会の神藤顧問による講演「東海大学と技術士資格について」がトップバッターであり、技術士法の成立に関して、本学の松前重義氏・篠原登氏が大きく貢献された歴史的背景があったことが説明されるとともに、本学関係者が多く技術士資格を取得することを期待した、熱のこもった講演であった。最初の講演であったことから、聴講者は多くなかったものの、熱心に聞き入っていた。講演には、中央のメインモニターのほか、両サイドに合計10台ほどの可動式モニターも活用され、後方の座席からでもスライドが見えるよう配慮されていた。



【本会神藤顧問による講演状況】

その後、東海大学医学部附属東京病院 白石副院長による「医学部デモ講演」、チャレンジャーセンター活動報告「ソーラーカーレース報告」、鳥人間コンテスト報告、同窓会後藤副学長による「学園の近況報告」、全日本大学対抗駅伝選手権「応援プロジェクト」、そしてレーサー鈴木千勝氏による「自己紹介と活動報告」と続いた。

全日本大学駅伝応援プロジェクトでは、このイベントの熱気に後押しされるように、本学が優勝を飾り観衆から大歓声、HCDに花を添えた。



【全日本大学対抗駅伝応援プロジェクト状況】

14時30分からは、総合体育館に場所を移し大懇親会に参加した。ここでは、多くの料理と飲み物を手に、HCDの成功を祝うと共に、他の出席者と交流を深めた。



【大懇親会状況】

7. まとめ

無事にイベントを実施することができ、会員との交流も図れたことから、意義があったものと感じた。また、大学の目覚ましい変化ぶりに目を奪われるとともに、懐かしさに感慨深い想いもあった。

同窓会の皆様に多大なご協力いただき、無事にイベントを実施することができたことに感謝し、報告とします。

§ 5. 令和元年度東海大学望星技術士会見学会の報告

—東海大学海洋科学博物館見学会—

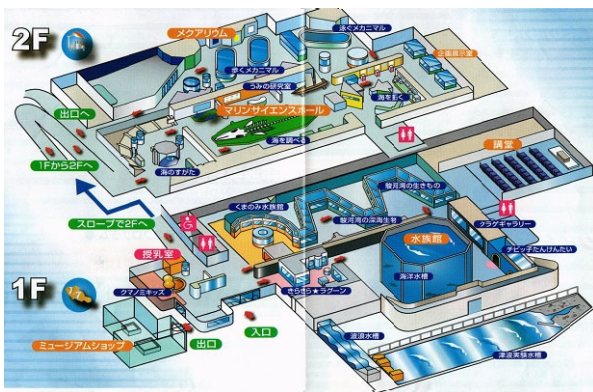
東海大学清水キャンパスで行われる学生との講演・交流会（令和元年 11 月 30 日）に先立って、東海大学海洋科学博物館を、望星技術士会会員 8 名で見学しました。

博物館の受付で、望星技術士会として見学させていただきますと挨拶すると、受付の皆さんはじめ館員の方々が暖かく迎えてくれました。



1. 海洋科学博物館の概要

海洋科学博物館は、海の科学を分かりやすく説明し、海のことを知ってもらう「海の博物館」として、1970 年に開館し、1 階は水族館、2 階はマリサイエンスホールとメクアリウム（機械水族館）、3 階は研究室となっています。同館は、1962 年に開設されたわが国初の海洋学部の附属博物館として、生物学や工学などの教育研究にも利用されており、展示については、水族館部門と科学博物館部門に分かれています。



2. 海洋科学博物館内を見学



まず、1 階では、サンゴ礁の可愛らしい底生生物たちを集めた「きらきら★ラグーン」が出迎えてくれ、さらに進むと開館当時は東洋一と謳われた巨大海洋水槽内を悠々と泳ぎ回るサメなど大型の魚たちに目を奪われました。

続く展示コーナーには、幻想的な「クラゲギャラリー」や駿河湾の生き物や深海生物のビワアンコウなど珍しい生き物ばかりです。

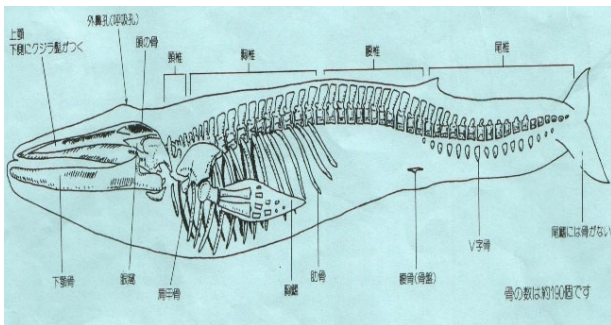
見学中に私が驚いたのは、「サクラダイの体色と性の変化」です。サクラダイは、下図博物館の資料にあるように、成長するにつれ体色や斑紋が変化するようで、全長 10cm くらいの時はメス、12cm くらいのときは雌雄同体（卵巣と精巣の両方を持つ）で、さらに成長して 16cm になるとオスのみ（卵巣がなくなり精巣だけ）に変化することでした。



1階の最後の展示コーナーは、日本初の「クマノミ水族館」で、クマノミの仲間 30 種類のうち、約 15 種類を展示しています。そのほとんどが、同館で繁殖したものだそうです。とても可愛らしく、子供さん達に大人気の場所です。大人でも、クマノミと一緒に楽しめます。写真は、会員の畑恭子さんが、円筒形水槽の中に下部から入って、クマノミを観察しているところです。



続く 2 階の「マリンサイエンスホール」の展示では、海の不思議を体験することができます。私が、目を見張ったのは、全長 18.6 メートルの巨大な「ピグミーシロナガスクジラの骨格標本」でした。大き過ぎてカメラに収まらないため、同館のガイド資料(下図)をご覧ください。なお、「ピグミーシロナガスクジラ」は、全長 25 メートルにもなる、史上最大のシロナガスクジラに非常に似ているものの、そこまでは大きくならないため、ピグミーの名前がついており、ずんぐりしているのが特徴だそうです。



さらに、「メカアリウム」の展示コーナーでは、魚やカニ、カメなど海の動物を機械で再現したメカニマルという世界で唯一の展示を見学することができます。

同館の最後のコーナーとして、「クマノミキッズ」があり、タッチプールで海の生き物たちに、直接手で触れあうことができ、小さなお子さん達に喜ばれていました。

なお、この海洋博物館に隣接した屋外には、「津波実験水槽」があり、海岸をおそう高さ 10m の大津波を実際に起こるメカニズムによって再現可能です。ちょうど実験が行われる時間に立会うことができ、見学者全員の大注目となりました。



今回の見学では、大学側に大変ご配慮を頂き、非常に有意義でしかも楽しい見学ができ、参加者一同大変感謝しております。

ありがとうございました。(平野 滋 記)

§ 5. 令和元年度東海大学望星技術士会見学会の報告 —伊勢原キャンパス見学会—

去る2月15日土曜日、東海大学伊勢原キャンパス（医学部附属病院）において講演会・見学会を行いました。新型コロナウイルスが猛威を振り始めた頃で、一時は開催が危ぶまれましたが、関係各位のご尽力により無事に開催することができました。

小田急線伊勢原駅に集合し、バスで10分弱。丹沢山系を背に医学部附属病院が建っています。私が学生の頃は現1号館しかなかったの

で、近くで見るその多彩な威容に圧倒されてしまいました（今は2006年に診療を開始した5号館（新病棟）まであります）。まずはその1号館に入り、吉岡公一郎先生（医学部医学科内科学系循環器内科学・教授、附属病院副院長、診療部長）にご講演いただきました。テーマは「東海大学医学部附属病院の最新診療、最新医学研究他」です。



吉岡教授

講演では1975年に開設した1号館が、当時東洋一の大病院と呼ばれていたこと、「白い巨塔」というテレビドラマ（1978.6～1979.1）のロケ地として使用されたことなどが紹介されました。附属病院は、一般的な医療機関で実施することが難しい先進的な高度医療を行うことができる特定機能病院として、神奈川県西部と中央部の医療圏をカバーしているそうです。現在病床数は804、2018年の実績値で外来患者は1日当たり2,482人、入院患者は1日平均765

人で病床稼働率は驚異の95%だそうです。また、年間入院患者数は279,373人、平均在院日数は12日と他の病院に比べてとても短く、非常に忙しい病院であることがデータの上にも表れています。



1号館

講演のあと、新病棟の5号館を案内していただきました。まずは病棟に行ったのですが、病室は4床室が中心でとてもゆったりとしたスペースでした。病院特有のにおいもせず、とても快適な空間です。その後外来診察を見学し、メインエントランスの「東海ホール」に行きました。ここには総合受付や会計などがありますが、4階まで吹き抜けでとても広々としていました。病院とは思えない清らかな雰囲気、一見の価値があります。



5号館

次に行った最先端の手術エリアでは、外履きで入れる「一足制」が採用されています。通常、手術エリアに入るためには更衣室を経て手術衣を着用し、さらに履き替えを行うので、私たちみたいな見学者が自由に出入りできることにびっくりしました。手術室前の通路が汚れることは想定済みで、それを考慮した高性能の空調設備が設置されているそうです。清掃を終えたばかりの手術室を見ることができたのは感動ものです。別の手術室では、通路から小さなガラス窓を通して手術中の様子をうかがうことができ、重ねてびっくりしました。付属病院の手術室は同じフロアに集中配置されており、全室の情報をスタッフが共有して手術スケジュールを組んでいるそうです。そうした取り組みが手術件数の多さ（12,522件：2018年度実績）にも繋がっているのだと感じました。



手術室前の通路



手術室

最後にドクターヘリを見学することができました。ドクターヘリは、救急医療専用のヘリコ

プターです。医療機器と医薬品が搭載されており、救急医療専門の医師と看護師を救急現場にいち早く運び、直ちに治療を開始できるうえ、遠距離からも短時間で高度な医療機関に患者を搬送することが可能です。2018年度の運行実績は222件だそうです。大雨や強風の時は出動することができないので、1年間で222件ということは、1日に複数回出動することもあるということです。神奈川県全域のほか、静岡県と山梨県の一部が運行範囲ということでした。ドクターヘリはいつでも出動できる状態で待機しており、ここでも医療現場の生々しさを感じることができました。

今回の講演会・見学会を通じ、付属病院が最先端で高度な医療を提供しながら、地域や社会に貢献していることを実感しました。また、命を預かるスタッフの皆様の姿をみて心の底から頭の下がる思いでした。こうした機会を提供していただいたすべての皆様に、この場を借りてお礼を申し上げます。（永井 和典 記）



ドクターヘリ前で

※ 本文中のデータは、東海大学医学部付属病院のホームページから引用させていただきました。

会員からの便り 1

技術士資格取得の応援活動に参加して

はじめに

2019年11月30日、東海大学海洋学部において行われた望星技術士会に参加しました。

きっかけは、同期の斉藤敏郎教授から、これまた同期の二宮早由子さんが講演する情報を頂いたからです。

そこで初めて望星技術士会の存在、学生の皆さんに技術士資格取得の応援活動をしていることを知りました。

先輩方や同期の講演を聞き、また真剣に質問をする学生に出会うことができ、短い時間でしたが、大変有意義に過ごすことができました。

後日、メールや電話等で入会のお誘いがあり、学生の技術士資格取得の応援活動や東海大学を盛り立てようとの趣旨に賛同して、入会させて頂くことになりました。

今回、この「会員からの便り」では、技術士等の資格のメリットを伝えることができればと書かせて頂きました。

資格は社会的な信用です

私は、建設コンサルタント会社で環境調査、環境アセスメント等の仕事をしています。

建設コンサルタント会社は、技術士（建設部門等）がいないと会社の登録ができません。

また、国の機関や区市町村等では、建設事業に係る環境調査の仕事をする場合、建設部門、環境部門等の技術士が会社に常駐していることが条件となります。さらに、技術者の人数や技術士の部門の種類で会社登録のランクや仕事ができる種類が決まるので、建設コンサルタント、環境コンサルタントでは必須の資格です。

この他、環境関係の資格には、環境計量士（濃度、騒音等）や土壌汚染調査技術管理者、生物分類技能検定（1級、2級）、ピオトープ管理士（計画、施工）等があり、それぞれ会社登録や官公庁業務の契約条件になっています。

技術士等の資格は、仕事の遂行能力、さらには、会社の社会的信用を示すものになっているのです。

出縄 二郎

（でなわ じろう）

海洋学部水産学科 1978年卒

技術士（建設部門-建設環境）

株式会社 環境アセスメントセンター



資格は、就職にも、将来的にも有利

当社の就職担当者は、エントリーシートや履歴書の内容を見ると、志望動機、自己PRも参考にしますが、即戦力や将来戦力となる資格を重視します。また、資格からその人の将来の目標が分かるからです。特に、技術士補は、入社後4年間の実務経験を積むと技術士試験を受けることができる資格のため注視しています。

建設コンサルタント会社の多くは、技術士資格に手当（数千円～数万円）を支給しています。資格奨励制度がある会社では、受験費用や登録費用、更新費用、合格祝金がある会社もあります。資格を2つ取得し、手当が2万とすると、生涯収入は1,200万円以上増えるのです。

当社も技術士、環境計量士等会社登録や契約条件となっている資格に手当や奨励制度を設けて、優遇しています。

この他、将来、転職する場合でも有資格者は有利です。ネットで「転職、技術士」を検索すると求人状況、年収等がかわりますよ。

望星技術士会の活動

望星技術士会は、学生の皆さんに技術士資格取得の応援活動をしています。

技術士は、技術者にとって最も権威のある最高位の国家資格です。技術関連分野を目指して就職活動している学生は、技術士を目標にしてください。そして、目標に至る計画を立ててください。学生時代に「技術士補」資格を取得し、就職4年後に「技術士」資格を取得、将来の独立開業も可能です。

今年の試験日は10月11日(日)、申し込みは6月18日(木)～7月1日(水)です。

ぜひ、チャレンジしてください！

会員からの便り2

技術士までの道のり ～令和の若手技術者へ～

1. 学生時代から社会人へ

「地図に残る仕事がしたい」という思いと、土木のスケールの大きさに憧れ、昭和61年（1986年）東海大学工学部土木工学科に入学、大学生としての一步を踏み出すことになった18歳。当時、工学部では教養部の2年間を札幌、湘南、福岡校舎と選択することができ、親元を離れた一心と行ったことのない福岡の地を選択しました。3年次になると、各地から湘南校舎へ集められ、本格的に土木の専門課程を学ぶことになりました。6号館、12号館あたりが主な活動場所で、食事は専ら円形食堂（現チャレンジセンターものづくり館）のA定食でした。専門を学ぶ中で「土木で人の役に立つことは？」と考え、「道路が無くても橋が無くても人は生きられるが、水がなければ人は生きられない」と考えるようになり、スケールの大きさを求めた土木から地味ではあるが不可欠な土木へ興味を持つようになりました。

この思いから、「水」専門のコンサルタント(株)日水コンへ就職し社会人となった22歳。

2. 社会人の苦悩と技術士との出会い

社会人一年生で配属されたのは名古屋支所。現在、私の住んでいる日本で一番暑い熊谷市より暑かった記憶があります。入社当時は、下水道管渠の実施設計と下水道計画を行い、出張は夜の繁華街が多かった気がします。2年半の名古屋勤務の後、東京本社へ転勤、配属先は会社の中核で、「東京都第二世代下水道」という基準も指針も存在しない業務に携わりました。中でも印象深いのは、東京都再構築事業の基準作りでした。東京都の下水道は歴史が古く、老朽化した下水道管をどのように再構築するかを考える必要がありました。今は各地で更新事業が行われていますが、当時は日本初で、前例がなく試行錯誤を繰り返し、困難の連続で体を壊した30歳。皮肉にもこれが技術士体験論文のテーマになるとは思ってもみませんでした。その後、大都市が再構築事業導入にあたり、各地へ

江口 真哉

(えぐち しんや)

工学部土木工学科 1990年卒

技術士（上下水道部門）

株式会社 シーエスエンジニアズ

取締役 技師長



説明行脚を続けましたが、体調不良から身の危険を感じ退職したい思いと、若いころからの独立の夢が一気に加速し、独立に何が必要かを考えたとき「技術士」に出会いました。独立には「技術力」と「信用」が大切で、そのためには「技術士」が不可欠と思い一念発起。2歳の長男と生まれたての次男の世話もせず技術士の勉強を始めました。

3. 技術士となって思うこと

勉強は帰宅後毎日体験論文と想定問題を繰り返し、指針や雑誌を読む毎日。頭が柔らかいうちに何とか合格したい思いで、初めて受けた試験で合格した33歳。「技術士」を取得し独立することになりました。技術士となってからは、その重みと責任を痛感する日々でしたが、顧客に対する信用や、周りからの評価が全くと言っていいほど変わりました。数年間ではありましたが独立した後、「技術士」を求めている会社が多くあることに気づき、現在の会社に再就職した50歳。現在は、取締役として経営と社員の育成を中心に仕事をしています。また、余談ですが、子供二人を下宿をさせながら私立大学（1名授業料が高い東海大学含む）へ通わせることができたのも「技術士」という資格への対価が大きかったことは言うまでもありません。

「技術士」は、会社や出世のために取得する資格ではなく、自身が対外的評価により「技術者」として認められた証で、技術屋の「プライド」だと思う52歳。「技術士」20年のおやじが、令和の時代を担う技術者や技術者を目指す若い方々に伝えたいのは、「プライド」と「夢」を持ち「技術士」という永久片道切符を手し、新しい旅に挑戦してほしいと願います。

<連絡事項>

1. 会員の皆様へお願い

東海大学望星技術士会は、入会金や年会費を当面の間徴収しないこととし、行事毎の必要費用を参加費として負担いただいています。そこで次のお願いがあります。

(1) メールアドレス変更の場合は必ず連絡下さい

当会では郵送費や会誌印刷費の予算はありませんので、メールアドレスを持っていることが情報交流のための一つの条件です。

メールアドレスを変える場合は大学事務局 喜友名氏にご連絡をお願いいたします。

kiyuna@tsc.u-tokai.ac.jp

(2) 東海大学出身の技術士取得者を紹介して下さい

東海大学卒の技術士をご存じなら、是非入会をお勧めくださるようお願いいたします。会員が多ければ、会のプレゼンスが向上します。また活動項目も増やせます。

【参考】最近の登録会員数は、
以下の通りです。
令和2年3月---- 201名

(3) 入会方法ならびに問合せ先

事務局アドレスに「入会希望」をご連絡下さい。後ほど事務局より、入会にあたり必要な情報をお送りいたします。

東海大学望星技術士会

ホームページ :

<http://engineer.bousei.u-tokai.ac.jp/>

(4) 行事等への参加のお願い

講演会や見学会などの行事には会員以外の方にも参加いただけるようにしています。

同僚の方や同窓の方などに、開催通知を転送していただければ幸いです。

(5) ご意見・ご提案をお待ちします

「こんなイベントをやって欲しい」などのご提案や、改善すべき点などのご意見は是非事務局アドレスまでお送り下さい。また遠方の方もどしどしご意見や近況をお寄せいただければ幸いです。

2. 東海大学望星技術士会 今後の予定

令和2年度の総会・特別講演会は、下記の日程及び内容を予定しております。詳細は、改めて会員の皆様へ連絡を差し上げます。

日程：令和2年5月16日（土）

16時開始予定

会場：東海大学校友会館

東京都千代田区霞が関3-2-5

霞が関ビル35階

総会

報告事項：令和元年度活動実績報告の件
審議事項

議案-1：令和元年度会計報告
会計監査報告の件

議案-2：会則改定の件

議案-3：令和2年度役員選任の件

議案-4：令和2年度活動計画（案）

及び予算計画（案）の件

特別講演会

記念講演：『東海大学の人材育成
社会的実践力』

講演者：川上 哲太朗先生

会員講演：『望星技術士会の現状と
今後の展望』

講演者：久一 博世氏

※ **新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、令和2年度の総会は、メールによる開催・承認いただく形とさせていただきます、特別講演会は、開催延期とさせていただきます。**

＜役員紹介コーナー＞

東海大学望星技術士会役員に新たに久一さん、永井さん、庄司さんが加わりましたので紹介させていただきます。

久一 博世

(ひさいち ひろせ)

海洋学部海洋土木工学科 1973 年卒
建設部門（河川、砂防及び海岸・海洋、建設環境）51013 号
いであ株式会社 中国支店
河川水工部 技師長



このたび、初めて地方会員を代表する役員に就任する久一です。よろしくお願ひいたします。

私は、瀬戸内海のとても小さな島で生まれ、休みになると磯釣りや素潜りによるサザエとりなど、自然と触れ合う生活にどっぷりつかった少年期でした。

両親は、私が中学の時、住居のある集落からひと山越えたところで旅館を開業しました。

道路、水道・電気通信設備などのインフラがまったく無く、ゼロからのスタートでした。親せきなどの協力（肉体労働など）のたまもので、両親は、長男の私を含めた4人の子供を育ててくれました。

私は、自然が大好きで、また当時珍しかった学科名につられて海洋土木工学科に進学しました。将来は家業を継ぐつもりでおり、5年間のこしかけ予定で建設コンサルタント会社を選びました。私の技術者としての原点はこの小さな島にあり、両親を含め島民が楽になるインフラをと思いながら、道路、下水道、漁港などいろんな職種に挑戦してきました。故郷にインフラをとの夢はかないませんでした。その土地・土地の方のためと念じながらの業務遂行は楽しく、またやりがいもありました。

入社以来、業務で信頼を得て次の仕事に結びつけていた旧態の契約方法から、技術士の資格がないと受注が難しくなり、改めて資格の重要性に気づかされました。定年まで残り少なくなった53歳直前で取得したこの資格のおかげで、まだ仕事が続けられています。いつまでで

きるかわからない領域に入っていますが、末永く愛着してもらえるインフラ作りにまだまだ貢献したいと思っています。

最後になりましたが、望星技術士会には多くの地方会員がいます。技術士試験にチャレンジする卒業生の支援やキャンパス所在地で出前講座を開催したりする支部組織の発足に寄与できたらと思っています。

永井 和典

(ながい かずのり)

工学部 建築学科 1984 年卒業
衛生工学部門（空気調和）40479 号
川本工業株式会社
経営企画部 部長



昨年から役員を務めさせていただいている永井です。よろしくお願ひいたします。この1年間は戸惑うことも多くありましたが、東海大学望星技術士会の活動を通じ、改めて母校との絆を感じることができました。諸先輩にお力添えをいただいたお陰と感謝しています。

私は大学卒業後、各種ビルの空調や給排水といった建築設備の工事会社（サブコン）に就職し、設備設計一筋に30余年間を過ごしてきました。企画・計画段階から発注者や設計事務所、建設会社（ゼネコン）、ビルの居住者（使用者）や管理者など様々な方たちと打ち合わせを行いながら、提案書や設計図を作り上げていくことが主な業務となります。皆さんより良いものを、より高いコストパフォーマンスで実現したいという思いは同じですが、それぞれ立場が異なるので、なかなか一筋縄ではいきません。そうした中で、専門的知識だけでなく、問題解決能力やコミュニケーション能力が鍛えられたように思います。Win-Win（むしろ Total Win か）の関係構築は難しい、とつくづく感じています。

私は今年の2月に、長年携わってきた設計部門から経営企画部に異動となりました。技術系の業務から離れることとなりましたが、今まで技術者の生涯を通じて培ってきた資質は、社会の貢献に必要なものと考えています。今後は、日本技術士会や大学技術士会連絡協議会（33の大学技術士会が加盟）とも緩やかな連

携を取りながら、東海大学望星技術士会の更なる発展に寄与していきたいと思っています。

庄司 大介

(しょうじ だいすけ)

工学部土木工学科 1998 年卒
建設部門(河川・砂防及び海岸、海洋)83816 号
東京コンサルタンツ株式会社
関東支店 河川 1 部 次長



今年度より、役員に就任することになりました、庄司と申します。役員の中では最も若輩者ではありますが、宜しくお願いいたします。

大学時代は、勉学に励むと言うよりは専ら草野球のサークル活動や麻雀、パチンコなどに精を出していた学生生活でした。もう少しまじめに勉強しておけば良かったと、今になって思えば少し後悔もしておりますが、人生の中で一番楽しかった時代でしたし、大学時代の仲間はかけがえのない友人です。

本学卒業後、東京コンサルタンツ(株)に入社し、それ以来河川構造物(堤防・護岸・水門・樋門等)の設計に従事しています。東日本大震災時は仙台に勤務しており、生活もままならない状態のなか、応急復旧事業を担当した時はかなり苦労しましたが、今となっては良い経験です。また、去年は台風 19 号により、多くの河川が氾濫して甚大な被害をもたらしましたが、今後も地球温暖化に伴い降雨激甚化が進むため、河川構造物の重要性も増していきます。この状況下で、河川に関する仕事に携わるのは責任も大きいですが、やり甲斐も大きいです。仕事をする上で、業務を統括する管理技術者要件の、技術士資格は必要不可欠です。私自身も技術士取得後に、立場が社内外ともに大きく変わり、業務以外の対外活動も多く実施するようになりました。

そのため、本学の学生にも技術士資格を知って頂き、1 人でも多く技術士合格して社会で活躍するためのお手伝いが出来ればとの想いで、本会に入会した次第です。お世話になった本学への恩返しのため、微力ながら頑張っていきたいと思います。

<編集後記>

多くの方のご協力により望星技術士会「会報」第 4 号を発行することが出来ました。年度末のお忙しい中、快く原稿を書いていただいた皆様に改めまして感謝を申し上げます。

駅伝、ラグビーと東海大学の活躍が世の中で目立つようになってきました。技術の分野でも東海大学の底力を見せていきたいものです。望星技術士会がその牽引役となれるように願っています。

これからも皆様の多大なるご支援・ご指導をよろしくお願い申し上げます。

(星崎 紀一 記)

発行元：東海大学望星技術士会

ホームページ・アドレス

<http://engineer.bousei.u-tokai.ac.jp/>

アクセス用 QR コード

